

週目点

2006.11.12

▶ マグロ資源で国際会議

漁業も構造改革を



川本 裕子 早稲田大学教授

マグロの資源管理を行う大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）が十七日からクローチアのドロブニクで年次会合を開く。大西洋でとれるクロマグロの漁獲枠が削減される可能性が高いという。

マグロは世界中で取りすぎて減少している。外国政府からは日本による違法な乱獲の責任を問う指摘がある。一方、BSE（牛海綿状脳症）や鳥インフルエンザの影響で欧米や中国でも消費が急増している。価格は高騰し、日々の食卓にも影響が懸念される。

漁業はこれまで農業に比べて注目度が低い傾向があったが、現在も厳しい参入規制が残っており、担い手の新陳代謝がないまま技術・設備は衰え、就業人口は減り、食用魚介類の自給率は低下している。構造改革が必要だ。

従来の保護政策を大胆に転換し、競争原理によって日本の水産業の復活を目指すべき時ではないか。それは、日本の食文化の維持や食の安全確保にもつながる。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。